

(別記)

## 令和3年度山鹿市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は熊本県北部の内陸部にあり、市の北部の中山間地では水稲、露地野菜、たけのこ、栗、茶などが栽培されている。市の南部は平坦地域であり、すいか、メロン等の施設園芸や水稲や新規需要米などが栽培されている。全耕地面積に占める水田の割合は61%で、基盤整備率が73%となっており、土地利用型農業の生産性向上等をより一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられるため、生産組織に対して農地の利用集積を進めていく必要がある。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市の北部の中山間地では、露地野菜を中心に地形や気候を生かした栗、茶、みかん等への作物転換を推進することにより収益力強化を図る。南部では、平坦な地形を活かし、主要基幹作物である、すいか、メロン、菊等の施設園芸を中心とした高収益作物の作付面積の維持・拡大を図る。

また、新規需要米や大豆においては、今後も集落営農や農事組合法人、大規模農家を中心とした団地化や、ブロックローテーションを行うことにより、生産コストの削減や作業の効率化を図り、計画的な生産に対して取組の維持・拡大を推進し、収益力の強化につなげる。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

園芸作物等を中心に作付体系が数年以上定着している水田での作物の定着状況の把握を続ける。また、今後、ますます高齢化が進むことが予想されるため、担い手の確保や労働力の確保を推進していくとともに、地域の特性を活かし、農地の集積・集約化を推進する。畑地化の取組については、重点支援期間であることの周知を行い、今後も水稲作に活用される見込みがない水田は、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

関係者が一体となりながら需要に応じた生産に向けた取組を徹底する。また、食味ランキング等で実証された品質を活かし、安全・安心な主食用米を生産することにより、良食味で高品質なお米の産地としてブランド化に向けた取組を強化する。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米・米粉用米

今後、産地交付金を活用し、多収品種（ミズ村カウ）での取組を推進する。また、数量払いのメリット措置を最大限活用するため、増収を目指すための栽培技術や施肥技術の向上を図り、併せて品質向上を目指す。また、わら利用に取り組むことで畜産農家との結びつきを強化する。

## イ WCS 用稲

契約先の畜産農家と結びつきを強化するとともに、産地交付金を活用しWCS用稲生産水田への堆肥散布の取組を支援することで資源循環を促し、適切な生産・管理に取り組む。

## (3) 麦、大豆、飼料作物

### ア 麦

実需の求める品種の作付拡大を推進し、一大主産地を目指す。また、産地交付金を活用して、土壌改良剤等の散布による品質向上を図り、担い手への作付集約支援や排水対策を推進し、作付拡大と産地づくりを進める。

### イ 大豆

ブロックローテーションによる団地化で効率的な生産を図りながら、排水対策の徹底や栽培管理の遵守により、作付拡大と産地づくりを進める。

また、地産地消を推進し、高品質な生産物の安定的な出荷を行うことで販路拡大を目指す。

### ウ 飼料作物

地域の畜産農家における飼料作物の自給率向上により、安全・安心な飼料の確保と供給を図るとともに、水田の利用率を高めるための取組を推進する。

## (4) そば、なたね

産地交付金を活用し排水対策に取り組みながら栽培技術等の向上を図るとともに、二毛作の取組に対しても産地交付金での支援をおこなうことで現行の栽培面積を維持する。

## (5) 高収益作物

山鹿市は、中山間地から平坦地の農地条件に適した農作物を生産しており、多品目にわたるため、産地交付金を活用し、それぞれ特色のある野菜等の栽培面積を維持していく。また、特に高収益作物等について地域基幹作物として推進を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	2,153ha、10,442t	2,191ha、11,327t	2,191ha、11,327t	2,191ha、11,327t
備蓄米	0	0	0	0
飼料用米	51.4	52.0	52.5	53.0
米粉用米	101.2	101.5	102.0	102.5
新市場開拓用米	0	0	0	0
WCS用稲	500.6	501.0	501.5	502.0
加工用米	0	0	0	0
麦	628.5	629.0	629.5	630.0
大豆	108.7	109	109.5	110.0
飼料作物	292.3	292.5	293.0	293.5
・子実用とうもろ こし	0	0	0	0
そば	46.8	47.0	47.5	48.0
なたね	0	0	0	0
高収益作物	167.4	168.0	168.5	169.0
・野菜	148.8	149.0	149.5	150.0
・花き・花木	18.6	19.0	19.0	19.0
・果樹	0	0	0	0
・その他の高収益 作物	0	0	0	0
その他	7.0	7.0	7.0	7.0
・種苗類	4.6	4.6	4.6	4.6
・その他	2.4	2.4	2.4	2.4
畑地化	0	1	1	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 517kg/10a

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績） 【R2年度】	目標値 【R5年度】
1	大豆	大豆団地化加算 2ha (基幹)	団地化大豆面積	81.7ha	92ha
			反収	195.5kg/10a	198kg/10a
2 3	麦、飼料作物	麦・飼料作物二毛 作加算（二毛作）	麦+飼料作物 二毛作付面積	834ha	837ha
			水田利用率	113.04%	113.11%
4	飼料用米	わら利用の取組 (耕畜連携・基 幹)	飼料用米面積	14.5ha	17ha
			わら利用取組率	28.3%	31.0%
5	WCS用稲	資源循環の取組 (耕畜連携・基 幹)	資源循環の 取組面積	398.6ha	411.5ha
			資源循環の取組率	79.5%	80.2%
6	米粉用米、 飼料用米	米粉用米・飼料用 米 団地化加算 (基幹)	米粉用米面積	50.2ha	51.5ha
			米粉用米反収	532.1kg/10a	601kg/10a
			飼料用米面積	17.1ha	18.0ha
			飼料用米反収	545.2kg/10a	601kg/10a
7	麦（二毛作）、 大豆（基幹）	品質向上加算 (基幹・二毛作)	取組作付面積 (麦)	254.5ha	335.3ha
			一等級比率（麦）	45.4%	100%
			取組作付面積 (大豆)	41.0ha	50.3ha
			一等級比率 (大豆)	37.2%	37.3%
8	米粉用米	生産性向上加算 (基幹)	米粉用米取組 作付面積	60.0ha	78.3ha
			反収	532.1kg/10a	600kg/10a
9	そば、 なたね	そば・なたね二毛 作 助成（二毛作）	そば・なたね二毛 作面積	37.3ha	42.6ha
			水田利用率	113.04%	113.11%
10 11	野菜、花き・花木	高収益作物助成 (基幹)	野菜・花き・花木 (露地) 作付面積	61.4ha	63.0ha
			野菜・花き・花木 (施設) 作付面積	99.7ha	101.0ha
12	野菜、雑穀、その 他作物	地域振興等作物等 助成（基幹）	地域振興等作物 作付面積	6.3ha	29.3ha
13	米粉用米、 飼料用米	米粉用米・飼料用 米反収向上助成 (基幹)	米粉用米作付面積	101.2ha	101.5ha
			米粉用米反収	532.1kg/10a	601kg/10a
			飼料用米作付面積	51.4ha	62.3ha
			飼料用米反収	545.2kg/10a	601kg/10a